

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4590100105		
法人名	社会福祉法人 愛鍼福祉会		
事業所名	シルヴァーリージャ		
所在地	宮崎県宮崎市大字加江田4540-3		
自己評価作成日	令和元年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和元年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員としての事業所のあり方を考えている。昨年からは閉鎖した小規模多機能型居宅介護事業所のスペースを活用し地元サロンへの場所提供などによって、入居者との交流も増えた。また日常的に地域住民との交流も続けられている点はシルヴァーリージャの特徴の一つではあると思う。入居者さんへの関わりに部分では30年度より身体拘束等廃止に向けた取り組みの一環として、入居者さんの尊厳、権利擁護への向き合い方を考えるようにしている。小さな事ではあるが、具体的な行動として、言葉遣い、居室やトイレの扉を開けっ放しにしない、居室入室の際のノックや本人への断りの徹底などに取り組んで毎月の振り返りなども行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在力を入れている、入居者の権利擁護の向上や身体拘束を防ぐ取り組みの一環としてケアの「振り返りチェック表」を用いて、職員各自が問題意識を持って介護実践を行うように工夫されている。具体的な場面を記入する欄を設けることで、よい気づきがなされていた。言葉遣いや、意向の確認などにおいても、適切だったかどうか問題意識をもって検討している。介護計画では、個々の入居者ごとの希望の活動や、家族や地域資源などが取り入れられ、個別性を重視した計画が立てられていることも優れている点である。運営推進会議では、家族の意見に耳を傾け、公表方法の検討もなされていた。また、ホームの敷地内ではヤギが飼育されており、入居者や近隣住民の癒しや交流の一環となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とは別に事業所独自の理念を作成し掲示しており、共有は出来ていると思うが、具体的な行動としての実践共有という点も不十分な点もあると思われる	職員間で話し合っ組み立てた理念を大切にしており、決定のプロセスを含めて、目に触れる箇所に掲示している。管理者は、理念の共有を図り、職員と共に、実践に繋げる努力をしていきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は月1回のサロンに場所を提供し、毎回入居者も参加している。祭りの共催、一斉清掃、自治会行事への参加、クリスマス会や餅つきなど長年にわたり交流をさせていただいている	場所を提供しているサロンには、入居者の知人も訪れ、交流の場となっている。地域住民との物品の貸し借りや、相談などがある他、加入している自治会を通しての行事参加など、積極的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括からの依頼による地域ケアマネの勉強会への出講やサポーター養成講座への協力などはしている。サロンや行事参加などを通じて入居者の方と関わることで支援方法の理解にもつながっているのではと考えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではメンバーからの助言を受けて、報告の公表方法などの改善を行ったり、運営の見直しなどに繋げたりしていることもあった。	運営推進会議において、出席者からの発言に耳を傾け、改善などに取り組んでいる。意見を元に、議事内容の公表方法の改善にも取り組んでいる。管理者は、参加メンバーの検討も行っていきたいと感じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは研修事業への協力などを通じて協力関係の構築に取り組んでいる。また、迅速な事故報告書の作成と持参による提出などで顔を合わせ直に話をする機会を持つようにしている	直面した課題などについて、積極的に相談を行い、関係構築に努めている。入居者のニーズに合わせて様々な担当者、担当課に相談し、課題解決に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修を実施、毎月のミーティングにおいても個々の振り返りチェック表を用いて確認を行うなど意識付けを行っている。運営推進会議においても報告を行っている。 玄関の施錠に関しては夜間のみ行っている	独自に作成した振り返りチェック表では11項目で自己の振り返りを行い、具体的な行動についても記入できるようになっている。具体的に記入することで、行っているケアについて考える機会となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、虐待のグレーゾーンなどの研修を行い意識付けを行っている。言葉遣いなどに注意し、お互いが気づけるように取り組みが約帯をしないさせない環境をつくれればと思っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解に関する研修は不十分かもしれない。全職員の理解度としてはまだまだだと思う。成年後見については申請から支援を行った入居者もあり、現在も活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明は行っているつもりではあるが、細かい部分などは伝わりにくい、または忘れてしまいがちな部分もあるのではないかと思う。説明の際には、印象に残る様な伝え方の工夫をしていきたい		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会などで得られたご意見等は職員を通じ管理者、必要に応じて法人へとつないでいる。今後は運営推進会議における意見の報告や検討などにも力を入れていきたい	遠方にいる家族に、毎月写真にメッセージを添えて送付することで、関係構築に努めている。日々のケアの中で入居者本人の意志を大切に、面会の際に家族から意見をもらうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内で出来ることに関してはミーティングなどの機会を中心に意見を聞くようにしている。代表者に関しては年に1回面談の機会が設けられているが、反映までには至っているか不明	管理者は年度ごとの個別面談を通して、研修の計画を立てている。計画作成業務と兼務しており、立場故に難しさもあるが、ケアの内容や物品購入などの意見に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内では希望に沿うような勤務表作成などの整備に取り組んでいる。法人ベースでは資格取得への支援や休暇制度などの取り組みがなされている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外を問わず研修の機会を確保するように努めている。職員個々との面談を実施し年度目標を立てた上で研修の計画を立てているが、今年度は研修の機会が十分とれていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会の研修や外部研修で交流機会を作っているが、今年度は機会が少なくなっている。祭りなどの行事の際には他事業所の職員にボランティアで協力を仰ぎ交流の機会にも充てている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者やケアマネが本人家族と面会し話を聞くようにしている。入居後も職員が本人と話を聞きながら関係作りをするようにはしているが、困りごとと要望を全て聞き出せてはいないと思う		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込相談の段階でも可能な範囲で不安なことや要望などは家族の話を聞くようにしている。入居に当たっても再度聞くようにしており、入居後は面会時などにも話を職員が聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で緊急性の度合いなどは把握するように努めている。状況に応じては他の事業所や他のサービスの利用についての相談にも応じるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないよう、必ず本人に「聞く」ということを実施し何がしたいのか、したくないのかの確認を行う事をするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常の様子を伝えたり、月に一度写真を添えた手紙を担当者が送るなどして情報の共有ができるようにするなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から通っていた美容室の利用などの支援を行っていたが、状態変化などもあって入居者が馴染みの場所や人との交流の機会が少なくなって十分な支援が出来ていない	入居者の身体機能の変化に伴い、外出しての関係継続の機会は減っているが、サロンでの交流や馴染みの人の訪問などがある。ニーズに応じて、支援の機会を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら関係性の構築に努力はしているが、利用者同士が話をする機会が少なくなっている。誕生日のお祝いは全員で行うなどしている。行事等で関わりの機会を増やしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも訪ねて来て下さったり、相談に来てくれる家族もいるので、対応している。今年度は在宅に帰られ看取るケースもあったのでサービス事業所へのフォローなども行えた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時や見直し時には必ず本人に話を聞き思いや希望などを聞くようにしている。聞き取りが難しい時には家族などの話も聞きながら本人の望むであろう希望などを推測してはいるが、十分に出来てはいないかもしれない	飲み物や調味料など、生活の中での自己選択を重視し、声に耳を傾けるように努めている。本人の希望に沿っているのか、問題意識を持つようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前入居後を問わず本人家族から話を聞く等生活歴や馴染みの暮らし方の把握には努めているが、十分に把握し切れていない部分もある。日常の関わりのなかでもそれまでの生活状況の情報収集を意識するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	知り得ている情報をもとに1日の過ごし方を考えて過ごしてもらうように努めているが、職員の都合になったり、出来ること、力を使う場面を奪っている時があるかもしれない		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングは介護職員とケアマネで協働して行っており、面会時などに家族とも話を聞き意見を伺うようにし必要に応じて介護計画へ反映するように心がけている	モニタリング・介護計画は入居者ごとの担当職員が記入後、計画作成担当者が追記等を行い作成している。家族がホームに来て行っているインシュリンの注射などの支援や、本人の畑での作業など、多角的な視点で計画を作成していた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録には事実に基づく気づきやアイデアを記入するように意識しているが、まだまだ不十分。記録による情報の共有はできており、モニタリングの際にも記録を参考にして介護計画作成に活かすようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた計画の変更は行っている。今年度は看取り期に自宅へ戻っての介護を望む方への支援として、在宅サービスへのフォローなどを行い。今後の支援のあり方についての考え方に幅が広がった		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それまでに本人が繋がっていた地域資源の把握は十分に出来てはいない。現在の地域の中でサロンや行事に参加し新たなつながり関係は作れるような支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を踏まえたかかりつけ医に受診をしており、家族が受診に対応する場合は本人の状況や気になることなどを伝え連携を図るようにしている。職員同行の場合も同様に情報を伝え適切な医療を受けられるように支援を行っている	希望するかかりつけ医に受診し、情報のやりとりが行えるように支援している。他科受診を含めて家族が対応することが難しい時には、ホームの職員が対応する。必要に応じて訪問看護とも連携し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職員は配置されていないが、契約による訪問看護ステーションとの協働を行っている。月4回の訪問では情報の共有と健康管理や受診の必要性の伺いや助言を受けており、必要に応じて電話相談も24時間体制で行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には当日遅くとも翌日には情報提供を文書及び口頭で伝えるようにしている。入院中もできるだけ病院へたずね本人の様子を確認したり、病棟の職員への情報提供(介護の仕方や本人の生活状況など)伝えたり、早期退院に向けて協働するようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の際の説明や意向確認は行っている。終末期には本人、家族、主治医と共に方針(事業所で出来る事出来ない事の確認を含め)を決め、話し合いを繰り返しながらチームでの取り組みを行っている	職員体制や設備等を踏まえて対応方法を説明し、希望する生活の継続が行えるように支援している。終末期においても本人、家族の意向を基に介護計画を作成し対応している。自宅復帰を希望された方の帰宅支援を行い、本人の希望する終末が実現できるように支援したケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修でAEDの取扱、心肺蘇生法、応急処置の方法などは学ぶ機会はあるが、全職員が実践力を身につけているとは言えない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しているが回数は不十分。台風による避難の回数は経験を積んでおり、その準備や方法については身につけていると思われる。地域との協力体制は実際の訓練など出来ていないが、法人内の協力体制が確保されている	台風接近の際は、規模に応じて高台の同法人の施設に避難するなど、実践を行っている。また、各居室にはスプリンクラーが設置され、設備が整っている。近隣住民の中には予め協力を依頼している方もおられるが、実際の避難訓練を共同で行うまでには至っていない。	地域と共同で訓練を行うまでには至っていないため、これまで築いてきた、日頃のつきあいを活用し、訓練実施に至ることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な言葉遣い「さん」付けでの呼称、居室へ入る際のノックや本人への声掛けと承諾を得ることを徹底しているが、言葉遣いなどはまだまだ十分とは言えない	ホームを訪れる第三者が見聞きしたときにも違和感を感じない言葉遣いや接し方が行えるように、管理者は職員と問題意識を持つように努力している。居室のドアの開けっ放しもないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんなことでもまずは「本人に聞く」ことを意識するようにはしている。聞く際には選択肢を用意したり、どうしたいのか等意向を聞くなど質問の仕方を変えたりしながら、本人の思いを表出できるようにはしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や寝る時間などできるかぎりは本人のペースを守るようにはしているが、職員の都合で入浴や外出などは行われていることが多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や出かける際のおしゃれな服を着ることの支援などはするようにはしている。朝晩の着替えの際にも洋服やパジャマなど数着の中から選んでもらうようにはしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	頻度は減っているが一緒に、調理の準備をしたり味見をしてもらったりしていただくこともある。本人が台所に来た時は何かを一緒にするようにしている。歩ける方にはご飯をよそいに来てもらう。下膳もして頂いている	入居者の心身機能に応じて、できることを一緒に行っている。また、献立には意見を取り入れている。食事の前には姿勢の確認や口腔体操を行い、嚥下がスムーズに行えるように工夫している。希望があれば外食を行うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食思や咀嚼、嚥下機能に合わせた食形態の工夫や、好みに合わせた食事の提供などを行っている。食事量や水分の摂取量については毎日記録して栄養状態の維持や改善に活かしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけるなどして、口腔ケアを実施している。協力歯科医の指示や助言も受けて口腔内の観察を心がけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは記録などから把握に努め、誘導のタイミングを考えている。また、皮膚状態や排泄パターンを考えパッド類の選択を行っている。ただし、自立に向けた支援は不十分かもしれない	水分摂取量と排泄状況を個別に記録しケアに活かしている。個別的な状況に応じて、布パンツとリハビリパンツ、パットの使用を使い分け、不快感なく過ごせるように検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳酸菌飲料を飲んでいただく。運動を進めるなどはしているが、薬に頼っている部分は大きい。個々に応じた予防という部分には十分取り組めていない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて声をかけている。可能な限りタ方の入浴も実施しているが、おおむね自立している方にしか実施できておらず、職員の都合になっている部分もある。	入浴動作が自立している方はタ方の時間帯に入浴している。介助が必要な方は日中の時間帯に入浴の声掛けを行い対応している。入浴剤を使用したり、足浴が必要な方には毎日対応するなど、個別的な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や状態に合わせて、睡眠や休息の促しは出来ていると思う。夜間眠れずにいる入居者に対しても無理に寝かせるような事はしないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者の服薬表、薬の説明書はファイルし副作用等の注意点については理解するようにしている。なにも見なくてわかる状態ではないが確認することで理解にはつながっていると思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人の希望をもとに喜びのある毎日を送っていただこうとはしているが、畑など活動につながっている支援をできている入居者は限られているので、不十分かもしれない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい時に行きたい場所への支援はできていない。日常の買い物なども今は一緒に行けていない状況にある。地域や家族との協力を呼び掛けての外出支援などまだまだできていない	敷地内に飼育されているヤギと触れ合ったり、野菜づくりなどを戸外で楽しむ機会がある。心身機能の変化に伴い、日常的な外出の頻度が減っている。イベントなどで外出することはあるが、車両や人員の課題などで、十分な支援ができていないと職員も感じている。	入居者の希望や、地域との関係性を活かして、戸外での活動の機会が増えるためにどうすればいいのか、今後の検討と実践を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を管理している入居者は現在いない。希望があった場合に本人に財布を渡して買い物に行く。または本人から頼まれて買い物を代行する方は1名しかいない。使える可能性などももう少し検討して行きたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方には操作方法の支援などを行っている。日常的な電話の活用などの支援は不十分(機会の設定など)手紙については年賀状を家族あてに書いて頂くなどの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には幼稚にならないように注意を払いながら、季節を感じ取れるような飾り、前月の入居者の様子を写した写真の掲示などを行っている。また、小さな草花を飾るなどもしている。一人ひとりに合わせることはできないが、換気、照明、室温などの調整は室温計等も使い調整している	室内は十分な採光があり、室温も入居者に確認して調整している。冬季には加湿器が活用され、感染予防にも努めている。職員が採取した季節の草花が飾られ、季節感も感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛け、3人掛けなど複数のソファを置いたり、和室空間にテレビを設置したり、共用空間を複数準備し必要に応じて誘導なども行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人の使っていた家具や想いでの写真などを持ち込んでもらっている。又入居後に誕生日を迎えた際には色紙をプレゼントするがそれを飾ってもらったりもしている。身体状況に応じてはベッドの位置を変えるなどの支援も行っている	本人、家族の意向に沿って、自由にレイアウトが行われている。入居者ごとに家族の写真が貼ってあったり、お気に入りの物品が置かれ、個性が感じられる居室の空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが設置され歩行への配慮はなされている。居室については手すりの設置が無いため、家具の位置を変える等での対応しかできていない。また、馴染みのない自動水栓の洗面台はレバー式の物に昨年変更した		